

環境経営 レポート

2023年度版 ≪2023年10月～2024年9月≫



目次◆CONTENTS	・・・1
1.組織の概要、対象範囲	・・・2
2.組織図	・・・3
3.環境経営方針	・・・4
4.環境経営目標（中長期計画含む）及び 実績	・・・5
5.環境経営活動計画 及び 取組結果と次期への課題	・・・7
6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果	・・・8
7.代表者による全体評価	・・・9

1. 組織の概要

事業所名	サンエツ工業株式会社
代表者名	代表取締役 田中 敦司
事業所名、所在地	〒319-0205 茨城県笠間市押辺2109番地11
環境管理責任者	常務取締役 内桶 伸晴
環境改善実行委員長	製造部部长 鈴木 昌之
事務局長	機械課課長 武藤 功次
電話・FAX番号	TEL. 0299-45-7496 FAX. 0299-45-7542
代表メールアドレス	kanri-ib@sanetsu-koryo.com
ホームページ	https://sanetsu-kogyo.co.jp
事業内容	プラスチック部品製造業

弊社は主に医療機器、照明機器、通信機器等のプラスチック精密部品を試作品から量産品まで一貫生産しております。加工内容は、マシニングセンター、複合旋盤・汎用旋盤、注型加工、射出成形、部品組み立て等、多様な加工方法で対応しております。

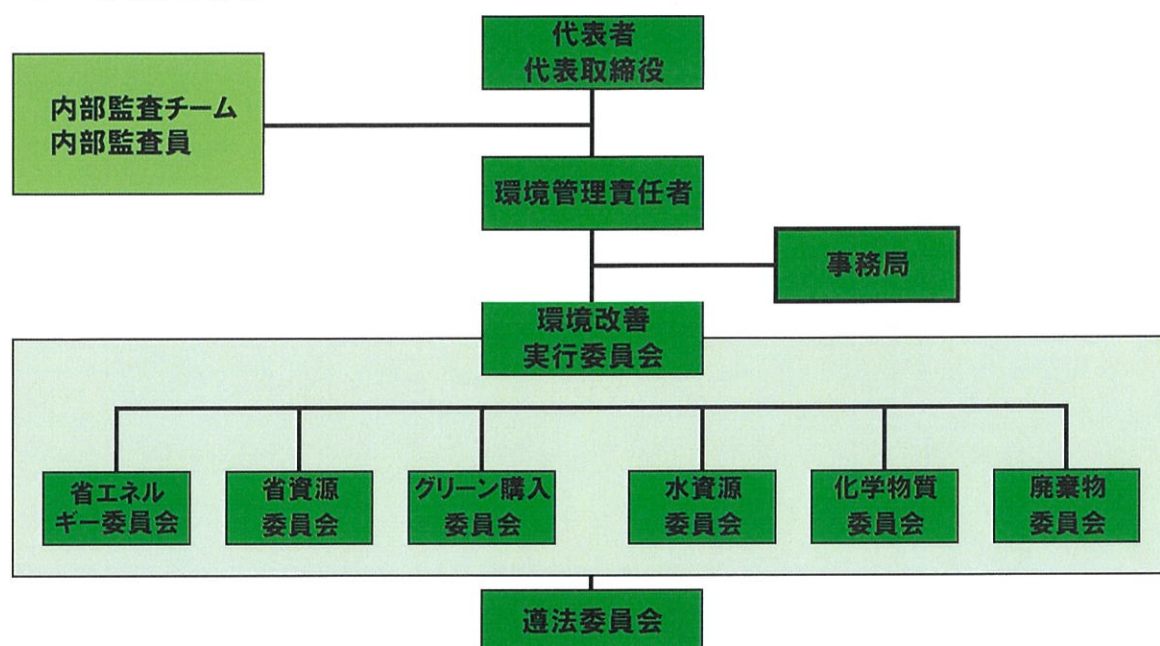
◆「認証・登録の対象範囲」 全組織、全活動

◆事業規模

期 間	2014年10月 ～2015年9月	2015年10月 ～2016年9月	2016年10月 ～2017年9月	2017年10月 ～2018年9月	2018年10月 ～2019年9月
従業員数（人）	59	79	84	95	95
床面積（㎡）	1,248	1,248	3,337	3,337	3,337
期 間	2019年10月 ～2020年9月	2020年10月 ～2021年9月	2021年10月 ～2022年9月	2022年10月 ～2023年9月	2023年10月 ～2024年9月
従業員数（人）	103	104	121	166	225
床面積（㎡）	3,337	3,337	5,751	5,751	9,487



2. EA21環境活動体系図



役割 (職位)	責任 及び 権限	
代表者	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営方針の策定、見直し、従業員への周知 - 環境管理の実施及び管理に必要な資源を提供 - 環境管理責任者を任命 - 代表者による全体の評価と見直し実施 - 内部監査員の選任 - 経営における課題とチャンスの明確化	
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、管理 - 環境経営方針に基づく環境経営目標、活動経営計画承認 - 各委員会月次報告書承認、評価 - 環境活動の取組結果の代表者への報告	
事務局	- 各委員会年次活動計画書・月次報告書作成指示、提出推進及び回収し、各部署の確認後、環境管理責任者へ提出 - 環境経営活動に係る文書作成（環境経営レポート作成） - 従業員に対する教育訓練の実施（全体朝礼等） - 問題点の是正の確認と推進 - 予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置	
遵法委員会 ※ 各委員会委員長と事務局で構成	- 環境関連法規取り纏め - 関連法規の更新、追加等調査 - 従業員への周知、教育	
環境改善実行委員会	- 全従業員を以下の6委員会に配置し、全員で環境活動に取り組む - 年1回活動目標・計画を策定 - 毎月委員会を開催、月次レポート作成	
内部監査員	- 内部監査計画、手順の策定 - 年1回内部監査実施	
委員会名	活動目標	実行項目
① 省エネルギー	・電気使用量削減	デマンド管理、消灯
② 省資源	・紙資源、ガソリン・軽油（化石燃料）削減	使用量集計、使途調査
③ グリーン購入	・グリーン購入率向上	購入点数集計、啓蒙ｽﾀｰ、呼びかけ
④ 水資源	・節水	使用量集計、啓蒙ｽﾀｰ作成・掲示
⑤ 化学物質	・社内で使用する化学物質製品の管理、SDS管理	購入量・保管量集計
⑥ 廃棄物	・廃棄物削減	使用量計測、廃棄物分別・分類ｽﾀｰ作成

3. 環境経営方針

当社はプラスチック関連製造事業を行っており、その業務遂行過程において発生する地球環境保全に影響を与える諸課題に対し、全従業員一丸となって環境改善に取り組むことを宣言します。

実行課題

- 1 事業活動全領域で、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、資源（紙類）使用量、水使用量、化学物質使用量、グリーン購入率を把握し、使用量の削減に努めます。
- 2 委員会を設置し、委員会毎に制定した活動目標、活動計画に基づいて環境保全への取り組みを実行し、継続的に環境負荷の削減に努めます。
- 3 環境に関する法令や条例、その他規制を受ける事項を周知徹底し遵守いたします。
- 4 SDGs（持続可能な開発目標）を具体化するための施策（EA21）を実践します。

2005年10月1日制定

2018年12月1日改定

2020年10月1日改定

2022年 4月1日改定

サンエツ工業株式会社

代表取締役 田中 敦司

4. 環境経営目標 及び 実績

2023年度(2023年10月～2024年9月) 実績 (各部門の実績を示す)

No.	活動組織名	活動項目	管理内容	2023年度 目 標	上段: 目標	上半期 評価	下半期 評価	合計 評価	結果	来 期	中 期	長 期
					下段: 実績					2024年度目 標	2025年度目 標	2026年度目 標
1	SAN-EA21 事務局	二酸化炭素 排出量削減	消費電力、化石燃料排出量 CO ₂ 換算	747,440 (kg-CO ₂)	二酸化炭素排出量目標 二酸化炭素排出量実績 評価	357,646 402,875 ×	389,794 441,876 ×	747,440 844,750 ×	×	844,750 (kg-CO ₂)	844,750 (kg-CO ₂)	844,750 (kg-CO ₂)
2	省エネルギー 委員会	消費電力量 削減	消費電力量 排出係数: 0.473kg-CO ₂ /kWh	713,757 (kg-CO ₂) 1,509,000 kWh	二酸化炭素排出量目標 二酸化炭素排出量実績 目標(kWh) 実績(kWh) 評価	341,506 383,461 722,000 810,700 ×	372,251 424,045 787,000 896,500 ×	713,757 807,506 1,509,000 1,707,200 ×	×	807,506 (kg-CO ₂) 1,707,200 kWh	807,506 (kg-CO ₂) 1,707,200 kWh	807,506 (kg-CO ₂) 1,707,200 kWh
3	省資源 委員会	化石燃料 削減: ガソリン	ガソリン使用量 排出係数: 2.32kg-CO ₂ /L	8,714 (kg-CO ₂)	二酸化炭素排出量目標 二酸化炭素排出量実績 目標(ℓ) 実績(ℓ) 評価(99%以上)	4,561 3,898 1,966 1,680 ○	4,153 3,448 1,790 1,486 ○	8,714 7,345 3,756 3,166 ○	○	7,345 (kg-CO ₂) 3,166 ℓ	7,345 (kg-CO ₂) 3,166 ℓ	7,345 (kg-CO ₂) 3,166 ℓ
				24,969 (kg-CO ₂)	二酸化炭素排出量目標 二酸化炭素排出量実績 目標(ℓ) 実績(ℓ) 評価	11,579 15,516 4,488 6,014 ×	13,390 14,384 5,190 5,575 ×	24,969 29,900 9,678 11,589 ×	×	29,900 (kg-CO ₂) 11,589ℓ	29,900 (kg-CO ₂) 11,589ℓ	29,900 (kg-CO ₂) 11,589ℓ
				9,678ℓ								
		紙の使用量 管理と削減	A4コピー用紙 使用枚数	205,200枚	目標(枚数) 実績値(枚数) 評価(99%以上)	97,200 145,000 ×	108,000 145,000 ×	205,200 290,000 ×	×	290,000枚	290,000枚	290,000枚
3	省資源 委員会	紙の使用量 管理と削減	A3コピー用紙 使用枚数	27,000枚	目標(枚数) 実績(枚数) 評価(99%以上)	8,100 15,000 ×	18,900 20,000 ×	27,000 35,000 ×	×	35,000枚	35,000枚	35,000枚
4	グリーン購入 委員会	グリーン 購入率向上	事務用品、消耗品 購入における グリーン購入対象品 購入率	95%	目標(%) 実績(%) 評価	95 100 ○	95 99.7 ○	95 99.85 ○	○	95%	95%	95%
5	水資源 委員会	水使用量の 削減	水道水使用量 (稼働日)	日 ≤ 3.18m ³ → 5.09m ³ (6月に 目標値変更)	目標/日(m ³) 実績/日(m ³) 評価	5.09m ³ 6.46 ×	5.09m ³ 5.24 ×	5.09m ³ 5.85 ×	×	日 ≤ 5.09 m ³	日 ≤ 5.09 m ³	日 ≤ 5.09 m ³

4. 環境経営目標 及び 実績												
2023年度(2023年10月～2024年9月) 実績 (各部門の実績を示す)										来 期	中 期	長 期
No.	活動組織名	活動項目	管理内容	2023年度 目 標	上段: 目標 下段: 実績	上半期 評価	下半期 評価	合計 評価	結果	2024年度目 標	2025年度目 標	2026年度目 標
6	化学物質 委員会	メチレン 保管量管理	メチレン保管量	月≦34 kg	目標(kg)	34	34	34	○	月≦34 kg	月≦34 kg	月≦34 kg
					実績(kg)	25	21	23				
					評価	○	○	○				
		エポキシ硬化剤 HY956 保管量管理	エポキシ硬化剤 保管量	月≦7kg	目標(kg)	7	7	7	○	月≦7 kg	月≦7 kg	月≦7 kg
					実績(kg)	3.1	3.2	3.1				
					評価	○	○	○				
7	廃棄物 委員会	一般廃棄物 削減	一般廃棄物 削減	3,408kg	目標(kg)	1,704	1,704	3,408	×	3,530kg	3,530kg	3,530kg
					実績(kg)	1,890	1,640	3,530				
					評価	×	○	×				
		廃プラ削減	廃プラ削減	72,144kg	目標(kg)	36,072	36,072	72,144	×	72,140kg	72,140kg	72,140kg
					実績(kg)	36,880	35,260	72,140				
					評価	×	○	×				
		有価比向上 (廃プラ比)	有価比向上 (廃プラ比)	有価実績 有価(リサイクル率)= (1-排出量/廃棄物 量)	実績(kg)	1,030	1,210	2,240	×	月≦3.00%	月≦3.00%	月≦3.00%
					有価比(%)	2.7	3.3	3.0				
					評価	×	○	×				

※来期、中期、長期目標は、今年度の実測値を暫定で計上する。売上上昇率、人員増加数または増加率を反映し毎年度見直しを行う

※電力の二酸化炭素排出係数： 2019年度実績 (株)シナジアパワー0.473(kg-CO2/kWh)/基準値は5年間適用(2020年度～2025年度)

※水使用量基準:稼働日 上半期123日、下半期122日

【目標の達成状況について】

二酸化炭素排出量	電気使用量、軽油使用量が目標値を大きく上回り目標値をオーバーした。
電気使用量	建屋の増設、受注の増産に伴って機械の稼働も増え、夏場の猛暑の影響で空調に負荷がかかった。 目標値が甘かったと痛感している。適切な目標設定を行う必要がある。
紙使用量	紙の購入量はA3、A4どちらも目標未達となった。原因は受注量増加により図面の発行や品質文書に使用する用紙などが増えた為と思われる。 来期目標設定は売上の上昇率(108%)を反映し使用量と売上の増加率が適正かを観察する。
グリーン購入率向上	グリーン購入の推進により目標を達成した。3月からペットボトルキャップの回収を再開する事が出来た。
水使用量	新工場(S8棟)・SGarden等々の工事関連・人員増も含め目標値に対し未達の結果。一人当たりの使用量計測にて参考値であるが数値を掴めた。次年度の活動に活かしていきたい。
一般廃棄物排出量	14%増加を見込んで目標設定をしたが、人員増加(増加率36%)が想定より増えることにより廃棄物量が増加し目標達成とならなかった。
廃プラ排出量	売上目標14%UPに対して目標値を設定したが23年度売上実績は27%UPと厳しい状況ではあったが生産時のロス削減の呼びかけの効果もあり目標を達成することが出来た。。

5. 環境経営計画 及び 取組結果と次期への課題

委員会名	主な活動	活動項目	取組結果	評価	次年度への課題(計画)
省エネルギー委員会	消費電力削減	月1回電気使用料金の発表と各種省エネの呼びかけ	委員会の全体集会を月に1度必ず行い、まずは委員へ使用量と電気料金の周知を図った。その後、各職場の朝礼で発表してもらい、合わせて省エネの呼びかけも行った。省エネ活動を推進するポスターも掲示した。	○	委員会の全体集会および、朝礼での呼びかけを継続して行う。合わせて年間を通しての省エネ促進物の掲示、社内だけでなく家庭での省エネも促進する情報を発信していきたい。
		エアー漏れ点検	2ヶ月に1度のペースで行っていたが、早期発見・早期対応を目的として、毎月実施することとした。	○	早期発見・早期対応やエアー漏れに対する意識を変えるためにも、各職場用に点検表を作成し、記録を残すこととしていきたい。
		デマンドコントロール警報対応	設備導入による消費電力量の増加と、新たな設定値を決めて、デマンドコントロール管理を行い、警報時には放送で各職場の対応をお願いした。 ※夏季にはS5棟～S8棟において、エアコン消費電力調査を行った。	△	デマンド警報の放送があったら、各職場内対応はもちろんの事。共有部分(休憩室、暖房便座など)の電気使用状況を見直していく。
省資源委員会	化石燃料、紙資源削減	A4サイズ・A3サイズの用紙使用量の削減	紙の購入量はA3、A4どちらも目標未達となった。 原因は受注量増加により図面の発行や品質文書に使用する用紙などが増えた為と思われる。	×	削減を目標に掲げたが結果として使用量が増えてしまった。売上の増加率に伴い使用量も増加していると考えられる。紙の使用用途に着目し重複する作業が無いかな分析を行う。
		化石燃料使用量管理(ガソリン、軽油使用量管理及び削減)	ガソリンは達成、軽油は未達となった。 原因は受注数増加により配達頻度が増えた事によるものと考えられる。	△	こまめなアイリングストップなど社会全体として取り組んでいる削減対策を周知し使用量の推移を観察する。
委員会 水資源	水使用量の計測と節水	節水呼び掛けのポスターの表示	各委員の節水監視・各水道にあるポスター張替え実施(S8棟新設済)	○	節水監視継続・『水の大切さ』をアピールするポスター作成 SDGS取り組みHP等々を参考に。(継続)
		水使用量の記録と目標値との比較	工事関連にて適正な使用量の把握が難しかったが、計測した数値を基に1日の使用量・一人当たりの使用量と一年間通しデータ収集を行えた。	○	水使用量の記録と目標値との比較見直し(従業員増の中の月別にて検証を行う)(継続)目標値も一人当たり使用量に変える事を計画する。
委員会 グリーン購入	商品・サービス・事務消耗品のグリーン購入推進	グリーン購入対象品購入推進	グリーン購入率が4月だけ98%になってしまったが、該当商品を調べて、グリーン購入品に切り替えてもらい、次の月からは、100%達成を続ける事が出来た。	○	前年度に引き続きグリーン購入率の推進に努めます。(継続)
		エコ商品切替推奨及び社会貢献(ペットボトルキャップ回収)	3月より再開した、ペットボトルキャップの回収が3月から9月で平均960個回収することができた。	○	ペットボトルキャップの回収についての内容も反映させたポスターを作製していく。
化学物質委員会	化学物質の把握と削減	社内で使用する化学物質のリスト見直し	活動計画通り化学物質のリストを見直し、リストを一新。	○	化学物質のリストは引き続き4月に行う。(継続)
		メチレン、エポキシ硬化剤入出庫管理	活動計画通り毎月メチレンとHY956(硬化剤)の入出庫管理を行った。	○	メチレンとHY(956)の入出庫管理は引き続き毎月行う。(継続)
		マニフェスト管理(化学物質廃棄時)	活動計画通り3月と9月にマニフェスト管理にてメチレンの処分を行った。	○	引き続きマニフェスト管理にて処分を行う。(継続)
		リスクアセスメントの推進	リスクアセスメントの評価について、各職場の有機溶剤の取り扱い量、作業頻度、作業環境を考慮し再評価を行った。	○	今期は各職場のリスクアセスメントの再評価を行ったので、来期は費用対効果を考慮しリスクランクが高い職場からリスク低減処置を実施していく。(継続)
廃棄物委員会	廃棄物量の把握と削減	廃棄プラスチックの分別	無価と有価(産廃とリサイクル対象品)の分別はしっかりできたが、有価プラスチックの品種を増やすことができず、有価比を上げることが出来なかった。	○	有価比を上げるため、新規回収先の検討を含め活動していく。有価品種が増えた際には、分別の徹底を指導していく。有価引取り業者の開拓、引取り種類を増やすことを目指す。(継続)
		パーキング量の削減	納期重視ではあるが、連続で同一材を使用する生産を行うことができ、パーキング量の削減できている。	○	引き続き一材料を使用する製品を成形するような生産計画を立てパーキング量の削減に努める。(継続)
		マニフェスト管理	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の作成もでき、きちんと管理されていた。	○	マニフェストの管理者が次期より変更となる為、引継ぎにもれが無いよう教育し管理徹底を継続する。(継続)
		一般廃棄物の分別(生活一般ゴミとリサイクル紙の分別)	新規従業員に対して、分別の徹底の説明が不十分で、生活一般ゴミの中に個人の持ち込んだゴミが入ってたりすることが見受けられた。	×	委員全体で分別の徹底を促していき、分別に関するポスターを作るなど、活動していく。(継続)
		廃油の削減	油に混ざった金属やプラスチックの切子を定期的に取り除き、作動油の交換を少なくし、廃油の削減をすることができた。	○	引き続き定期的な清掃を実施し、廃油の削減に努める。(継続)

6. 環境関連法規等の遵守状況確認 及び評価

N0	環境関連法規	対 象	対応事項	更新日	評価結果	担当者
1	消防法	化学薬品	取扱化学薬品一覧作成・更新	2024/4/26	○	化学物質副委員長
2		会社設備全般	消防用設備等点検（年2回・うち1回3月は消防署へ届出）	2024/9/30	○	防火管理者
3			消防訓練：社内自衛消防団編成	2024/12/6	○	防火管理者
4		危険物貯蔵所	危険物貯蔵所設置	2023/1/25	○	防火管理者
5	高圧ガス保安法	窒素ガス（成形機用）	窒素ガス保有量管理、規制の有無チェック	2024/4/26	○	製造部部長
6	水質汚濁防止法	ジクロロメタン、化学薬品	使用済廃液は認可を受けた廃棄物回収業者に廃棄処分を依頼し、管理を徹底する	2024/4/26	○	組立課課長 兼 化学物質副委員長
7	大気汚染防止法		優先的に対策に取り組むべき物質（優先取組物質）として挙げられた23種類にジクロロメタンが含まれる 使用済廃液は認可を受けた廃棄物回収業者に廃棄処分を依頼し、マニフェスト管理を徹底する			
8	PRTR法		第1種指定化学物質排出状況把握、管理（当社排出量は全て1t未満のため届出非該当）			
9	騒音規制法	成形機、コンプレッサ	笠間市宛特定施設設置届提出確認	2021/12/10	○	事務局
10	振動規制法	成形機、コンプレッサ	笠間市宛特定施設設置届提出確認	2021/12/10	○	事務局
11	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	業務上排出される廃棄物全般	廃棄物管理票（マニフェスト）の交付とA、B2、D、E票の適正管理	2024/12/23	○	廃棄物委員長
12			委託契約者の許可証等の有効期限確認	2024/12/23	○	廃棄物委員長
13			1年間の廃棄物管理票交付等状況報告書を茨城県へ提出（年1回）	2024/6/24	○	廃棄物委員長
14	笠間市廃棄物の減量及び処理に関する条例		事業系廃棄物の減量及び処理：再生可能物の分類による減量及び一般可燃物・産業廃棄物を処分業者への完全委託により笠間市の公的な処分場への排出ゼロ実施	2024/12/5	○	廃棄物委員長
15	RoHS2規制	規制物質10種	新しい材料または薬品等を導入する際、SDS及び非含有証明書等を取り寄せて把握する	2024/4/26	○	環境改善実行委員長
16	労働安全衛生法	労働災害防止SDS管理	社内安全衛生委員会運営、月1回の巡視と委員会開催、巡視結果と是正を毎月公示/SDSの管理と見直し（化学物質委員会活動）	毎月安全衛生委員会開催 化学物質委員会活動	○	衛生管理者 化学物質副委員長
17	浄化槽法	浄化槽	浄化槽保守点検 及び 浄化槽清掃実施（4ヵ月に1度保守点検実施、専門業者へ委託）	2024/10/1	○	事務局
18	フロン排出抑制法	フロン排出に該当する機械・空調設備	1. 社内で使用している第一種特定製品のリストアップ 2. 設備の簡易・定期点検 及び 点検記録の保存 3. 機器整備時のフロン類充填 及び 回収委託	2024/10/25	○	製造部部長

サンエツ工業株式会社において、環境関連法規への違反はありません。

非該当事項についても、関連がある事項については自主的に調査及び社内規制を遂行しております。

2023年10月1日～2024年9月30日 法規制による外部からの苦情は一切ありませんでした。

●見直し期間 2023年10月1日～2024年9月30日

●評価日 2024年10月1日

7. 代表者による全体評価と見直し結果

2024年12月5日 エコアクション21 マネジメントレビュー 議事録

1. 廃棄物委員会 委員長

(1) 今年度目標

廃プラ、生活ゴミは前年度から今年度の売上目標14%アップを目標値設定に適応

- ・廃棄プラスチック量 月6,276kg以下（前年度年間実績66,060kg×114%÷12）
- ・有価比2.7% 前年度平均実績 月2.7%を目標値とした
- ・生活ゴミ 月287kg（前年度年間実績 2,990kg×114%÷12）
- ・リサイクル紙率 49%以上 前年度平均実績 月48.9%を目標値とした

(2) 実績

・会社が掲げた売上目標14%に対し廃プラ・生活ゴミの廃棄量目標も前年実績の14%

としたが実際には27%アップのため、その分生産量も増加したことによって

廃棄プラスチック量も増加、かろうじて目標達成することができた。

生活ゴミについては、急激な人員増加（36%アップ）により目標達成することができなかった。

有価比は目標2.7%に対し、結果が3%、目標達成したが、対象が現在はABSのみなので、

ABSを使用材料とした注文がない月には発生しない。

リサイクル紙率実績は54.9%で目標達成した。

(3) 今期の反省

①製造部は各課とも受注増、廃プラは目標達成したが、生活ゴミは急激な人員増加もあり、目標未達。

②有価を回収する業者がABSのみの引き取りとなっているが、他の材料も引き取り可能な

業者を引き続き探す。昨年から成形課に租砕機を導入し廃棄プラスチックを廃棄する際

細かくできたので無価コンテナを回収する回数を減らすことができた。無価コンテナ1回の

回収配車料金1回25,000円の費用削減になっている。1回の積み込み量が500kg程度増えた。

(4) 来期の目標

①委員会全体で廃棄プラスチック、一般廃棄物の削減を目標に活動していく。

②引き続き有価比向上のために新規回収業者を検討する。

③引き続き租砕機の使用を継続し、無価コンテナの回収回数を削減していく、

【質疑応答】

（質問・意見）生活ゴミが目標未達の原因を、人員増加によるものと発表したが、

売上が上がると作業量が増えるので廃棄物が増加するのは理解できるが、人員の増加はゴミの増加理由

にはならないのでは。個人のゴミは持ち帰るルールなので、人員が増えてもゴミは増えないのでは。

（回答）人員が増えたことによって、作業量が増えるので、その分一般ゴミが増えると考えた。

（質問）では、一般ゴミの内容は把握できているか。一般ゴミに排出されているゴミの内容を調査し、

どのような作業や活動によって一般ゴミが排出されているか把握し分析しないとどんなゴミがどれだけ

増えたかつかめない。

（回答）一般ゴミの内容を把握するよう委員会内で分担する。

2. 省資源委員会 委員長

(1) 今年度目標 前々年度から前年度の売上上昇率(108%)を前年度実績に掛けた数値を目標値とする

(紙使用量) A4コピー用紙 205,200枚以内、A3 27,000枚以内

(化石燃料使用量)ガソリン 3,756ℓ、軽油 9,678ℓ

(2)実績

(紙使用量) A4コピー用紙 290,000枚、A3 35,000枚

(化石燃料使用量)ガソリン 3,166ℓ、軽油 11,589ℓ

(3)結果

コピー用紙はA4が10カ月、A3が8カ月目標未達となった。ガソリンは3か月、軽油は9か月未達。
ただしガソリンは年間合計では目標達成した。

(4)考察

受注拡大を見込みS8棟を増築した際、業務効率を上げるため複合機を増設した。受注拡大に伴い
図面や作業指示書、検査要領書など出力が増え、コピー用紙使用量も増えたと推察する。
また自社トラック便による納品が1日1便から2便、3便へと大幅に増えたことが軽油使用量の
増加と目標未達の要因と考える。

【質疑応答】

(質問)省資源委員会はコピー用紙の使用枚数とガソリン・軽油の使用量を集計しているが
削減するための活動や環境に負荷を与えないための活動は何か行っているか。

(回答)今期委員長が交替して自分が就任してから、データを集めるだけの活動のみとなっている。

(意見)これからは委員長が交替したことによって、委員会内でもっと意見をつのり、
売上が上がったからコピー使用枚数や化石燃料の使用量が増えた想定するだけでなく、
実際に何に使っているのか、それは減らすことが可能なのか、具体的に分析してほしい。
現在、ISO9001取得を進めているが、いずれ14001環境も取得することになれば
今の活動内容では足りない。活動目標、チェック項目、結果のデータなど必要となる。
今から活動と記録、分担を強化してもらいたい。

(意見)ダンボール回収、オフィス古紙回収などは、現在は廃棄物委員会の活動になっているが、
紙使用量削減を掲げている省資源委員会の活動にしたほうが良いのではないか。

(回答)委員会に持ち帰り検討する。

(意見)顧客の要求によりトラックで納品したり、乗用車で営業に行くので、当社の意向で車の使用を
控えることはできないので、「化石燃料の使用量を減らす」という目標は現実的ではない。
例えば、あくまでも例としてだが、ノーマイカーデーを考えると、その日だけは乗り合わせてくる
といったアイデアを委員会の中でつのり、新しい活動を考えてもらいたい。

(回答)9割以上の従業員がマイカー通勤なので、ノーマイカーデーは現実的ではなく
乗り合わせも従業員同士乗り合わせて事故を起こしたときの補償に関わるので乗り合わせは会社で
推奨するわけにはいかない。あくまでも例として、化石燃料を削減すること以外の環境負荷の
削減となる活動目標を考える参考としたい。

3. 水資源委員会 委員長

(1)今年度目標 1日の水使用量3.18m³を6月に5.09ℓに変更した

(2)実績

10年近く3.18ℓ/日の目標を継続してきたが、今年度は大幅に水の使用量が上がり、
上半期1度も目標を達成できなかったため6月に目標値を見直し変更した。
委員会の活動としては、節水を呼び掛けるポスター掲示、各委員による各部署の水道回り見回り、
スポットクーラーの排出水を倉庫回りのモップ清掃に再利用するなど、新しい従業員も含めて
節水意識を高めるための活動を行った。

(3) 考察

期初、11月は1か月の水使用量が10月の3倍だった。S8棟の増築工事に使用したと推察される。

一番には業務拡大のため人員が毎月増員となり、月平均5名、年間で60名以上増えたことが使用量が増えた理由だろう。当社の製造には水を使用しないので、水を使用するのは一番にトイレ、次に毎朝の清掃や手洗いと考えられる。

月間と年間の使用量は確かに増えているが、それを一人当たりの使用量に換算すると毎月コンスタントに平均0.4～0.5m³を保っている。

従業員の節水に対する意識は高く、無駄に水を使っていないことが、一人当たりの平均からうかがえる。今後は1週間単位で使用量のデータ採取し、1週間単位で社内でのどのような活動があったかを調査すると使用状況をもっと細かく知ることができると考えている。

【質疑応答】

(参考意見) 現在、「社長のおごり自販機」のカップ自販機は現状では1か月約3,000杯販売されている。水道水を使用している。来年1月に食堂棟が完成すればもう1台増やし、さらには水道を直結するので、これまで以上に水道水の使用量が増える。それも踏まえてデータ収集し、来年度の目標値を見直すことを推奨する。

(提案) 一人が1日に使う水の使用量を「ペットボトル何本分、ジュース何本分」といった、わかりやすい数字で掲示してはどうか

(質問) 全国で問題になっているPFASについて、岩間の水道水は大丈夫か？

(回答) 次年度の目標設定には、カップ自販機の増設による水道水使用量を参考にし、またペットボトル何本分を一人当たり使用しているなど、目につく掲示などで情報提供していきたいと思う。

岩間の水道水のPFAS含有量は調べていないので、調査してみる。

4. グリーン購入委員会 委員長

(1) 今年度目標 グリーン購入率 95%

(2) 実績

定期購入のアスクルにおいてグリーン購入率は4月のみ98%でその他の月は100%達成

いずれにしても通年で目標達成した。

コロナ禍には停止していたペットボトルキャップの回収を再開した。それに伴い

回収ボックスをS1棟食堂、S2棟前自販機脇、S7棟食堂自販機脇に設置しPRポスターを掲示した。

ペットボトルキャップは約430個でポリオワクチンなど途上国の子供達へ送る助成として寄付される。

(3) 考察

キャップをつけたままペットボトルを捨てる人もいるため、分別してキャップを回収ボックスに入れてもらえるようにポスター掲示を工夫したり、委員から周囲の従業員に声掛けを行っていききたい。

【質疑応答】

(意見) キャップを分別するひと手間がかかるので、「ワクチンに変えて子供達を助けよう」と目的を明確にしたポスターを自販機近くやキャップ回収箱に掲示してはどうか。またペットボトル回収からワクチンまで行きつく流れを従業員に周知してほしい。

5. 化学物質委員会 委員長

(1) 今年度目標 メチレンの入出庫管理 目標34kg、HY956(エポキシ)入出庫管理 目標7kg

(2) 実績 メチレン、HY956(エポキシ) 年間を通して目標値内で管理できた。計画通り、化学物質リストの見直し、マニフェスト管理、リスクアセスメント評価を有機溶剤の取扱量増加に合わせて見直した。

(3)考察 活動計画通り実行できている。

(4)今後の課題 新しく入社した人への化学物質取り扱いの注意喚起として掲示物、ポスターや資料回覧により周知を徹底していきたい。

【質疑応答】

(質問)他にも化学物質を使用しているのに、特にメチレンとエポキシの2種類を特定して管理しているのはなぜか。

(回答)有害物質である特別管理産業廃棄物に該当するから。PRTR法に準じて管理している。

(意見)段階を経て、今期はリスクアセスメント評価を実行できて活動が躍進している。

会社全体に周知し、引き続き適正な管理を推進してもらいたい。

6. 省エネルギー委員会 委員長

(1)今年度目標 前年同月比マイナス1%

年間使用量 1,509MWh

(2)実績 年間使用量 1707.2MWh(前年実績1,526.9MWh) 前年に比べ180.3MWh増

※委員会活動の実績

①毎月1回委員会開催

②省エネ啓発ポスター、トイレ温熱注意喚起ポスターなど月替わりの掲示を実行

③デマンドコントロールへの対応、新たな設定値を決めて警報への対応④エアーもれ点検月1回

⑤設備導入時の省エネ設備検討を呼び掛け ⑥各職場のエアコンフィルター清掃を必ず行う。

(3)考察

年度前半は2月に電力を大幅に消費してしまい、さらに毎月目標達成には届かなかった。

年度後半の夏季には猛暑の影響もあり、S8棟が完成してから過去最大の消費電力量を記録してしまった。

契約電力量が456kWに上がってしまった。今後も消費電力を抑えるために省エネに対する意識を

今までより強くする活動を行っていきたい。

【質疑応答】

(質問)エアー漏れ点検を2か月に1回から月1回に増やしたということだが、実際にエアー漏れが起きていたことはあったか？

(回答)実際にはエアー漏れはなかった。しかし、設備の劣化や破損など早期に発見し即対応できるように点検頻度を増やした。

(意見)S8棟はS7棟の倍の面積で空調設備の台数も倍近いが、断熱効果が高く空調設備も新しいので、使用電力量が倍になることはなく、全体の2～3割アップにとどまっている。

1月には食堂棟が完成するので、そこでさらに電力使用量がアップすることは見込まれるが、

稼働後に、売上ベースの目標設定に見直すことを提唱する。

適性な目標値を元にした方が、デマンドコントロールを有効活用して管理していけると思う。

【全体総括】

代表者

各委員長の皆さん、1年間の活動お疲れ様でした。省エネルギー委員会は毎月委員会を招集してポスター作成を行ったりデマンド管理を実施したり、非常に活発に活動できている委員会もあれば活動が停滞した委員会も見受けられました。新しい従業員が増えたため、かつては全員参加で行っていた委員会活動も、正社員のみとし、委員会活動に参加しない従業員もいます。

環境活動は会社の運営、経営活動に直結します。業務の一環として、全従業員が意識を持って取り組むことができるように、新しく任命された委員長、そして選抜されたメンバーの方々が新しい発信力と

なって牽引していただきたいと思います。

これだけ人数が増え、職場が拡大すると、誰もいない食堂の電気やエアコンが点いたままになったりすることを目にすることがあります。一人一人の行動が、大きな数値に反映されていくと実感します。一人一人の意識が高まれば、大きな削減につながると思います。ここに参加されている委員長・副委員長、管理者、事務局の皆さんが従業員の意識改革のトリガーになることを期待します。

環境改善実行委員長

皆さん、1年間お疲れ様でした。

活発に委員会活動を行っている委員会もあれば、なかなか忙しくて活動に乏しい委員会もありますが必ず期日までにレポートを提出するというルールを守って活動してください。委員長だけでなく、他の委員の方誰が委員長をやっても大丈夫なくらい、委員全員に活動が浸透するように情報共有や分担して委員会活動を行っていくようにお願いします。

数値が上がったのは従業員が増えたからかも、ではなく、定期的に目的に沿ったデータを積み上げ具体的な分析を行い、結果を導き出せるようになってもらいたいと思います。

【代表者による指示】

社長総評

- ・環境経営方針 変更なし・継続する
- ・環境経営目標と計画 目標数値は新年度向けに更新した。活動項目は変更なし、継続する
- ・実施体制 変更なし・継続する